

G7 科学大臣会合について（結果概要）

日 程

令和4年6月12日（日）～14日（火）

各国出席者

独：ベティナ・シュタク=ヴァツィンガー 連邦教育研究大臣
日：大野 敬太郎 内閣府副大臣（科学技術政策担当）
伊：マリア=クリスティーナ・メッサ 大学・研究大臣
加：モナ・ネマ 主席科学顧問
仏：シルヴィー・ルタイヨ 高等教育・研究大臣
米：アロンドラ・ネルソン大統領府科学技術政策局長代行
英：ジョージ・フリーマン ビジネス・エネルギー・産業戦略省政務次官
EU：マリヤ・ガブリエル イノベーション・研究・教育・青少年担当欧州委員

概 要

- ・ 主宰は独・シュタク=ヴァツィンガー連邦教育研究大臣。
日本からは大野内閣府副大臣が出席（於：フランクフルト）。
- ・ 冒頭、ウクライナ研究科学大臣よりスピーチがあり、その後の議論を踏まえ、大臣コミュニケを発出。



2022 年 G 7 科学大臣会合
科学研究に関する大臣コミュニケ（概要）

2022 年 6 月 12～14 日、フランクフルトにおいて開催された G 7 科学大臣会合において、科学と研究に関する大臣コミュニケが採択された。

総論部

- ・民主主義、国際法の尊重、人権と自由の尊重といった共通の価値観及び科学の実施と科学と研究の享受における公平性、多様性及び包摂性への決意に基づく持続可能な未来のための科学研究の促進のために集結。
- ・ロシアによるウクライナ侵略を厳しく非難。政府出資による、ロシア政府との研究協力のうち、適切なものについて制限している。ロシアを離れたロシアの研究者及びロシアによって迫害されたウクライナの科学者及び学生を支援する。
- ・地球規模課題の解決のために研究と科学協力へのコミットで結束。

1. 科学と研究における自由、インテグリティ及びセキュリティの推進と保護

- ・研究エコシステムにおける自由、公開性、インテグリティ及びセキュリティの確保、技術の責任ある利用を強調。
- ・グローバル研究エコシステムにおけるセキュリティとインテグリティ（S I G R E）作業部会において取りまとめられた「G 7 研究セキュリティとインテグリティの原則」を歓迎。
- ・新たに、科学コミュニケーションに関する作業部会の設置を検討。
- ・オープンサイエンス作業部会において進展している研究データの共有インフラ等の検討を支持。

2. 気候変動に関する研究

- ・パリ協定に記載された 1.5℃までの気温上昇に抑える目的を支持。
- ・二酸化炭素除去（C D R）に係る研究開発に関する情報共有を推進。
- ・統一されたデータ管理による全球海洋観測の国際連携等、海洋の未来イニシアティブ」の活動を推進。

3. 新型コロナウイルス感染症の罹患後の症状に関する研究

- ・新型コロナウイルス感染症の罹患後の症状に関する国際研究を推奨。
- ・同罹患後の症状に関する共通の定義の開発の必要性を認識。そのためのデータの収集等のため、WHOのプラットフォームを支援。

(添付資料)

- I. 科学と研究における自由、インテグリティ及びセキュリティのプロセス及び
SIGRE 作業部会
- II. オープンサイエンス及びOS 作業部会
- III. 海洋の未来イニシアティブ